

平成 24 年度 租税教育実践事例（第 6 学年社会科）

登米市立佐沼小学校

教 諭 関根 大悟

1 単元名 社会科「わたしたちの生活と政治」

小単元名「わたしたちの願いを実現する政治」

2 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は学習指導要領の内容（２）「国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが反映していること」を受け構成されている。

単元の構成にあたっては、「地方公共団体や国の政治の働き」と「日本国憲法の基本的な考え」の２つに分けられて、具体的な公共施設が造られる例を取り上げ、住民の願いや思いが実現されていく過程を知ることや、それらは日本国憲法の下で造られていることに気付かせていく。

また、国民の生活と政治の結び付きについて関心をもたせ、その中で税金の果たす役割について理解することもねらいとする。

(2) 児童の実態（男 15 名 女 17 名 計 32 名）

単元の前に児童に「税金」について尋ねてみた。「知っている税金は？」の問いには「消費税」という答えが返ってきた。「消費税」という言葉については全児童が知っていた。他にも「所得税」「固定資産税」「自動車税」という答えがそれぞれ 1 名ずつの児童から返ってきた。次に「自分も税金を払っているか？」の問いには、迷いながら 3 名が手を挙げた。「税金は必要か」という問いには、「いらない」と答えた児童が 25 名、「分からない」と答えた児童が 4 名、「いる」と答えた児童が 3 名いた。それぞれ理由を尋ねてみると、「いらない」と答えた児童は、「今度、消費税が 10% に上がるから」「100 円のが 105 円になるから」など消費税に関する答えがほとんどだった。「分からない」と答えた児童は、「税金がなくなると、なにか困る気がする。」「なんとなく。」という答えだった。「いる」と答えた児童は、「みんなのために使うものだから」という答えだった。また、消費税が 10% に上がることを知っており、「なぜ上がるのだろう」「上がった分はどうするのかな」など税金について興味を持っている様子であった。

この学習を通して、税金についての正しい理解を深め、納税者としての意識を育てていきたい。

(3) 指導にあたって

児童の税金に対する実態をふまえて、以下のような点に留意して指導にあたりたい。

《身近な公共施設について》

佐沼小学校の新校舎を建設しており、児童にとっては身近なものである。子育て支援施設ソーレと並行して、佐沼小学校新校舎を取り上げる。ただ、まだ中に入れないので、写真を使い中の様子を説明をした。また、児童は建設の段階から見るので、そこから公共施設に対して興味・関心を高め、施設ができるまでの過程を考えさせながら政治の働きについても着目させたい。

《補助資料「わたしたちの暮らしと税金」とインターネットの活用》

国税庁のホームページより、「マリンとヤマトの不思議な日曜日」のアニメを使って税金の大切さや「わたしたちの暮らしと税金」を使って税金の使われ方について気付かせていきたい。

3 指導計画（10時間扱い 本時5／10）

時	○おもな学習活動 ・ 内容	◆指導上の留意点
1	○子育て支援センターの見学 ・子育て支援センターを見学し、利用者インタビューして、幼い子どもをもつ親の願いについて話し合う。 ※佐沼小学校新校舎についても触れる。	◆子育て支援センターで行っている活動の様子やアンケートの結果から、利用者の願いについて考えさせる。
2	○ソーレの活動 ・子育て支援センターを見学したり、所長さんの話を聞いたりして、どんな目的で、どんな活動が行われているのかを調べる。 ※佐沼小学校新校舎についても触れる。	◆子育て支援センターで行われている、様々な活動の目的について考えさせる。
3	○住みよいまちを目指して ・市役所や市議会を見学したり、市役所の人話を聞いたりして、市役所や市議会の働きについて調べる。	◆子育て支援センターの活動が始められた経過について、市役所や市議会の働きと関連付けて調べさせる。
4	○税金の働きを調べる ・子育て支援センターを建設したり、運営したりするための費用がどこから出ているのか、収集した資料をもとに調べる。 ※佐沼小学校新校舎建設にも触れる。	◆子育て支援センターにかかる費用をもとに、税金が重要な役割を果たしていることについて気付かせる。
5 本時	○税金について考える ・今まで学習してきたことをもとに、税金がなくなったらどのようなになってしまうのか、税金はなぜ必要なのかを考える。	◆税金はみんなのために使われているので、みんなから集めているということに気付かせる。
6	○国の政治1－国会の働き ・国会や選挙に関する資料を収集して調べ、国会のしくみや働き、選挙の役割について、分かったことや考えたことを話し合う。	◆国会の働きや選挙の役割について、国民の願いとの関係で調べさせる。

7	○国の政治2－内閣の働き ・内閣に関する資料を収集して調べ、内閣のしくみや働きについて、わかったことや考えたことを話し合う。	◆内閣のしくみや働きについて、国民の願いとの関係で調べさせる。
8	○国の政治3－裁判所の働き ・裁判所に関する資料を収集して調べ、裁判所の働きについて、わかったことや考えたことを話し合う。	◆裁判所の働きについて、国民の権利との関係で調べさせる。
9	○もっといろいろ調べてみよう ・東松山市で行われている、さまざまな福祉事業について、収集した資料をもとに調べる。	◆東松山市の福祉事業について、グループや個人で調べさせる。
10	○まちづくりにわたしたちの声を生かそう ・学習したことをもとに、みんなの願いを生かした公園をつくるために、どのようなことに配慮したらよいかを話し合う。	◆子どもやお年寄りなど、いろいろな人が公園に対してどのような願いをもっているかを考えさせる。
	○国民の祝日について考えよう ・国会でつくった法律によって定められた国民の祝日について、話し合う。	◆それぞれの祝日について、設けられた意義について考えさせる。

4 本時の学習

(1) ねらい

税金の働きや目的について知り、税金は公共のために使われ、必要なものであるので、税金という形で国民などから集められていることを理解する。

(2) 準備物

「マリンとヤマトの不思議な日曜日」（インターネット資料・国税庁ホームページより）

「わたしたちのくらしと税金」（租税教育用副教材・宮城県租税教育推進協議会等より）

(3) 学習過程

段階	学習過程	学習の様子
つかむ	1 前時までの学習を振り返る	・佐沼小学校の新校舎建設や警察署や消防署には、税金が使われていることや消費税などの税金を払っていることなどを発表した。
	2 本時の課題を知る	もし、税金がなくなったらどうなってしまうのだろう？
	3 どんなことが困るのか予想する	・「消費税がなくなる」「税金を払わなくてよくなる」「佐沼小学校の新校舎が建たない？」「おまわりさんがいなくなる」などの意見が出た。

調べる	<p>4 ビデオ教材を見る 「マリンとヤマトの不思議な日曜日」を流す。</p> <p>5 予想とビデオの内容を比べ、自分たちの生活と税金のかかわりについて考える。</p> <p>6 学校と税金のかかわりについて考える 「税金がなくなると、学校に払う月謝はいくらになるとおもいますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちのくらしと税金」を使って確認する。 「約七万円から八万円です。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・あとで感想を発表することを告げたので、メモをしながら見ている子供もいた。 ・「道路を通行するのもお金を払わなければいけないとは思わなかった。」 「交番が会社みたいになっていて、道案内にお金を払うなんて大変だと思った。」 「こんなにいろいろな所に税金が使われていて驚いた。」 ・「塾の月謝と同じくらいかな？」 「一万円？」 「5000円」などいろいろな金額が出された。 ・驚きの声が上がった。ほとんどの子どもがそんなに高いとは想像していなかった。
まとめる	7 本時の学習を振り返りまとめる	

5 主な児童の感想

わたしははじめ、税金なんかなければよいのにと感じていました。今日、勉強して税金はみんなのために使われていることが分かり、大事なものだということが分かりました。これからはしっかり税金を払っていきたいと思いました。

税金は必要だということは知っていました。でも、なぜ必要かということがビデオを見てよく分かりました。

生活のいろいろな所に税金が使われているなんて知りませんでした。税金がなくなるといろいろな場面でお金を払わなければならないので税金は必要だと思いました。

学校の月謝が約7万円というのが驚きました。また、教科書や学校にある多くのものに税金が使われていることを知りました。